

吉野川のメンバーが利根川、筑後川を訪問しました



すっかり親戚づきあいになった三大河川の兄弟たち。茨城県筑西市にて

8月に長男・次男が訪ねてくれたので、秋は三男が兄さんを訪ねます。10月14日・15日、九州北部豪雨災害からの復興に向けて「ひとつになろう筑後川」をスローガンに掲げ、「第31回筑後川フェスティバル in 福岡」が開催されました。吉野川チーム14人は阿波踊りで元気を届け、水源地域の保全について考える緊急シンポジウムなどに参加。災害の爪痕が残る日田市も見学しました。

10月27日・28日に茨城県筑西市で開催された「川と共生する地域づくり in 筑西」水害を乗り越えて〜には16人が参加しました。平成27年9月の関東・東北豪雨では鬼怒川が決壊し、流域は甚大な被害を受けました。その決壊現場や、9月に設置された石碑を見学し、自然のエネルギーのすさまじさを再認識しました。



流木の山や土砂が残る被災地・日田。復興はまだ道半ばです

鬼怒川が決壊により、町の3分の1が浸水、8人が亡くなる被害を受けました



鬼怒川が決壊現場の近くに設置された石碑には「決壊の跡」と刻まれています

吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会の設立に参加

吉野川の流域でコウノトリや渡り鳥が飛来する豊かな生態系を維持していくと、10月19日、国や県、関係者ら37人が集まり、「吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会」が設立されました。吉野川交流推進会議ももちろん委員として参加しました。

鳴門市ではコウノトリのひなが3羽巣立ち、しかも、兵庫県や福井県から新たに6羽が飛来し、いっしょにエサをついばむ姿が確認されています（下写真）。また、徳島市では越冬のためツルの群れも飛来するようになっており、吉野川流域は国際的にも重要な生態系ネットワークの水辺環境拠点として注目が高まっています。環境の変化に敏感な野鳥達が、豊かな水辺環境にひかれて吉野川流域を選んだのだとしたら光栄なことですし、その環境を守らなければなりません。吉野川交流推進会議では、今後とも関係機関と連携してさまざまな取り組みを推進していきます。

鳴門市大津町にて



写真提供/コウノトリ定着推進連絡協議会 沖野智美様

さまざまな角度からアプローチする「吉野川」魅力再発見講座

古くから吉野川との関わりによって育まれてきた文化・歴史・環境をテーマに、今年度も「まるごと吉野川」魅力再発見講座を開催しました。10月21日（土）に予定していた第4回講座「四国三郎・吉野川 源流域バスツアー」（定員15名、応募者36名）は台風により中止となりました。

第1回講座 吉野川に架かる橋の魅力再発見

日時／7月23日（日）13時30分～15時

場所／徳島県立中央テクノスクール・ろうきんホール
講師／岡部 寛氏（徳島県土木整備部 道路整備課）

吉野川には、昭和初期に架設された三好橋、吉野川橋、最近では阿波しらす大橋まで約90年の間に46もの橋が架けられています。徳島県では「橋の博物館とくしま」と銘打って、魅力の発信に努めています。本講座では、架橋の歴史や技術、「とくしまブリッジカード」などの取り組みについて紹介しました。



吉野川に架かる46橋が「とくしまブリッジカード」になりました。入手したいカードの橋をデジカメ、スマホなどで撮影し、県内12カ所の配布場所で見せれば、その橋のカードがゲットできます。コンプリートを目指そう！



第2回講座（↓P.2・3） 第3回講座 『四国三郎・吉野川』の水利利用を学ぼう！

日時／9月2日（土）9時30分～16時25分

昨年引き続き、大好評だった子ども対象のバスツアーを開催。旧吉野川河口堰管理所、今切川河口堰、吉野川北岸工業用水道浄水場、ハレルヤスイツキツチンの各所で水利利用について学習しました。巨大な堰や閘門、浄水場など、普段は見ることのできない施設に参加者は興味津々。水の大切さを再認識した一日でした。



今切川河口堰の閘門